

あったかいが いいね

シャローム横浜通信 4月号



思いを馳せる

日増しに春らしくなってきました。気温も4月下旬の暖かさとなる日もありましたが、寒暖差がありますので、皆様風邪をひかないようお気を付けください。

毎年この時期には12年前の3月11日に発生した東日本大震災のニュースが報道されています。地震で失われた多くのいのちがあり、現在も悲しみや苦しみを負って生活されている方が多くおられますので、皆様が希望をもって生活できますようお祈りいたします。

先日、ご利用者の葬儀に参列した際、葬儀会場にはご本人の写真だけではなく、家族での旅行や友人たちとの写真が数多く飾られており、思わず見入ってしまいました。また、音楽とともにモニター画面からは生前お元気だった頃の思い出の写真が映像として流れており、その方の人生の一部を感じることができました。

介護現場では、職員が多くのご利用者と日々接しています。その方がいままでどのような暮らしをされていたかは、ご本人からの発言や入所時に得られた情報を職員はとらえています。しかし、コロナ禍前は面会で生活の場にご家族が直接来られていましたので、職員が直接ご

家族と話し合う機会が日常的にありました。その関係性の中で様々な情報を得ることができていたのですが、ここ3年はコロナ禍によってご家族が生活空間に入ることができていませんので、ご家族から直接情報を得る機会是非常に少なく、職員が把握している情報もなかなか更新されずにいるのです。

「このアドベンチスト福祉会は「いのちを敬い いのちを愛し いのちに仕える」という法人理念を掲げています。この「いのち」という言葉は、漢字で書く「命」を生命体としての命、平仮名で書く「いのち」を人生の物語としてのいのちとしてとらえています。この両方の「いのち」に誠実に向き合い、思いを馳せることでご利用者と私たち職員とのあいだにあなたかな関係と信頼性が生まれてくると思っています。

「ご家族や地域の皆様と再度向き合い、それぞれの「いのち」に思いを馳せることで「あったかいが いいね」と言えるように職員一同取り組んでまいりますので、今後とも指導・ご鞭撻を願ひ申し上げます。

施設長 高原 信夫



ひなまつり

今年も春が近づき暖かくなってきました。特養4階ではひな祭りのレクリエーションを開催し、お雛様を見ながらお菓子を皆さん召し上がりました。もうじき桜が咲く季節となり、皆様お花見を楽しみにしております。

ケアサービス課長 山田 康裕



第272号
令和5年3月15日発行
(毎月1回 15日発行)

責任者：施設長 高原 信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町1988
社会福祉法人アドベンチスト福祉会
シャローム横浜

編集委員
小林・荒金・石橋
☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>





認知症対応型通所介護（通称：ひまわり）

2022年度も残りわずかとなりました。今年度も、ご利用者の皆様やその関係の方たちのお力添えをいただき、様々なことに挑戦できる1年となりました。何より記憶に残っているのは、園芸関係です。花を育てるだけでなく、じゃがいもの収穫、調理そして食べるところまで、長期のレクリエーションとなったにも関わらず、たくさんの方々が参加してくださいました。シャローム横浜の

敷地内で梅の実を皆で収穫し、下処理して梅ジュースも漬けることができました。どれも、ご利用者の経験があったから、実現できたことばかりだったと感じています。

2023年度も、ご利用者の皆様の新しい面を見つけ出し、皆で楽しむ時間を作っていける、ひまわりでありたいと願っています。引き続き、お付き合いのほどどうぞよろしくお願いいたします。

ひまわり主任 穴道 美知子



ラーメン屋台

3月5日は栄養課主催のラーメン屋台を行いました。

ご利用者の皆様も久しぶりのラーメン屋台だったので美味しそうに召し上がっておられました。

今回のラーメン屋台メニューですが、醤油ラーメン、海老餃子、マンゴープリンでした。

栄養課長 小寺 秀偉



互いに配慮をもって

第180回 チャプレン 上前 至

3月13日をもってコロナ対策のため、全国民に義務化されていたマスク着用が、個人の判断に委ねられる事になった。但し、これからも同様、医療機関や高齢者施設ではマスク着用が推奨されるということでもある。そして、更に大型連休が終わった頃を一つの区切りとして5月8日をもって感染症2類に分類されていたコロナ感染症が、インフルエンザ感染と同じ5類に分類されるという。ということは、今まで禁止されていた場所での会合や、イベント集会が、個人の判断責任にゆだねられるとはいえ、限りなく、コロナが流行り始めた3年前の普通の生活に戻っていくきっかけになっていくのだろうか？

これに対し、感染症委員会専門家会議の会長である尾身茂会長は次のように言っている。「普通の生活が出来るように戻していくことを希望するが、そこは、やはり一度に以前のような状態に戻

すのではなく、段階を追って特にどんな時にも必要な医療が必要な時に提供できるようにしておくことが肝要で、そのためには必要な対策を怠らないようにしておく事が大切なことではないか」と。社会にはいろいろな考えの人がいるし、また、いろいろな症状を持った人がいる。一見、健康そうには見えるが実際には重い病気を持った人々もいる。そうした人々への配慮を、一人ひとりがこれからももっていく事が大切なのではないかという。マスクをするかしないかも、一人ひとりがそのような心構えを無くさない事が必要なのではないかということである。

「全て重荷を負うて苦勞している者は私のもとにきなさい。あなた方を休ませてあげよう」。

マタイ11章28節

